



解答と解説は 22 ページにあります。

新聞で
読解力アップ!

ワークシート

読解力は学力の基本です。記事を読んで、問題にチャレンジしよう。

阿寒湖・シュリコマベツ湾

46年ぶり天然球状マリモ

【阿寒湖温泉】直径15センチを超す大型球状マリモが世界で唯一生育する阿寒湖（釧路市阿寒町）のうち、かつて群生地だった湖西部のシュリコマベツ湾で、46年ぶりに天然の球状マリモが見つかった。マリモ保護関係者は「泥で悪化した生育環境が回復しつつある」とみて、将来の群生地復活を期待する。

（佐竹直子）

生育環境回復か

道内外の環境や生物の専門家でつくる「マリモ科学委員会」が20日に阿寒湖を

視察した際に、釧路国際ウエットランドセンター阿寒湖沼群・マリモ研究室（釧



路市）と釧路市教委マリモ研究室が報告した。

見つかった球状マリモは4個で、直径5〜6センチ。両研究室が6月13日に水草を潜水調査した際、砂や泥に覆われた湖底に点在していた。

市教委マリモ研究室によると、マリモ群生地は4カ所あったが、現存するのはチュウライ湾とキネタンベ湾の北部2カ所。西部のシュリコマベツ湾と大崎は1940年代に木材伐採による泥の流入で消失した。シ

ュリコマベツ湾で球形マリモが確認されたのは72年が最後で、直径1〜2センチの小さなマリモだったという。

阿寒湖沼群・マリモ研究室の若菜勇室長によると、チュウライ湾から流れてきた可能性もあるが、表面に傷みがなく、シュリコマベツ湾で1年以上生育したとみられる。4個のマリモは視察に合わせて湖から引き上げられ、今後、両研究室が詳しく調べる。若菜室長は「さらに分布が確認されれば、群生地再生の糸口が見えてくる」と話す。

マリモは浅瀬の湖底で光合成をして成長するため、透明度に影響されやすい。開発などで40年代から低下したが、下水道整備やヘドロのしゅんせつが進み、2011年には過去最高の9割を記録。シュリコマベツ湾では今年6月、崩れたマリモを使った再生マリモの育成試験が始まった。

動画は、こしん電子版で

北海道新聞朝刊

2018年7月21日（土）

(1) 阿寒湖に現存するマリモの群生地を、「シュリコマベツ湾」をのぞいて記事の中からすべて書き抜きなさい。

(2) シュリコマベツ湾でマリモが消失したのはなぜですか。「透明度」という言葉を使って説明しなさい。

(3) とありますが、生育環境を回復させた取り組みとして記事の中から読み取れるものを書き抜きなさい。